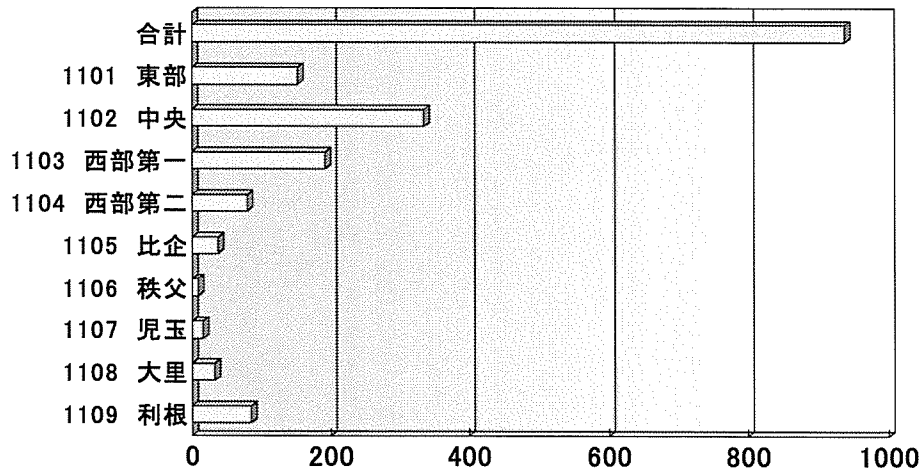


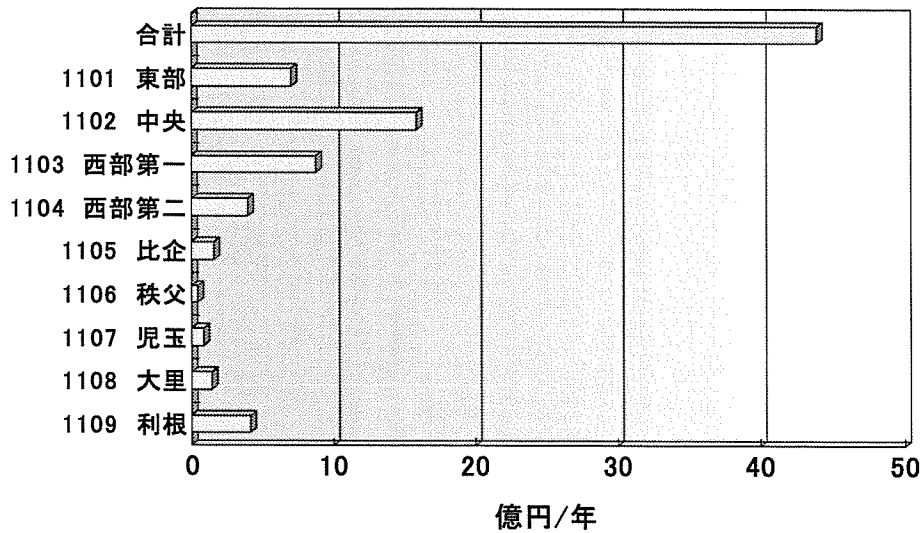
急性期必要病床数（糖尿病）



DPC傷病名分類・手術有無毎に以下の条件で必要病床数を推計

1. 急性期入院期間=特定機能病院の平均在院日数
2. 病床稼働率=0.8

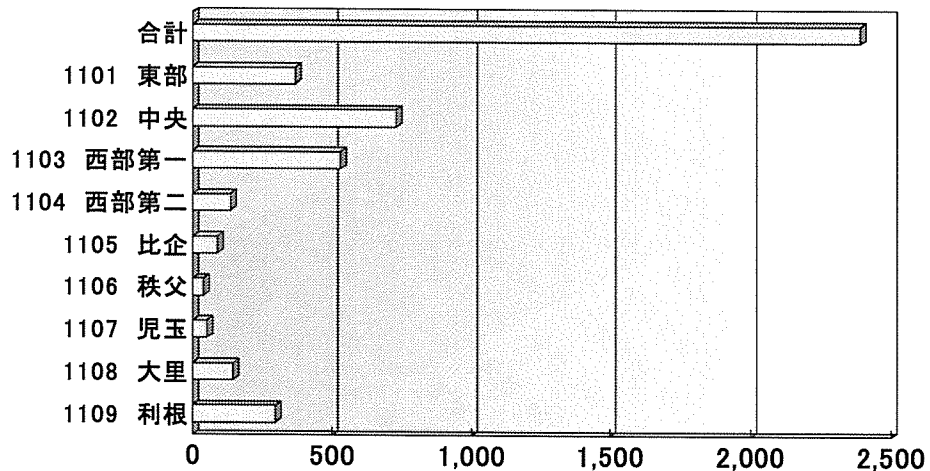
急性期年間医療費（糖尿病）



DPC傷病名分類・手術有無毎に以下の条件で年間医療費を推計

1. 急性期入院期間=特定機能病院の平均在院日数
2. 一般病院の1日あたり医療費=28,000円
3. 特定機能病院データより求めた疾病分類間の相対係数を使用

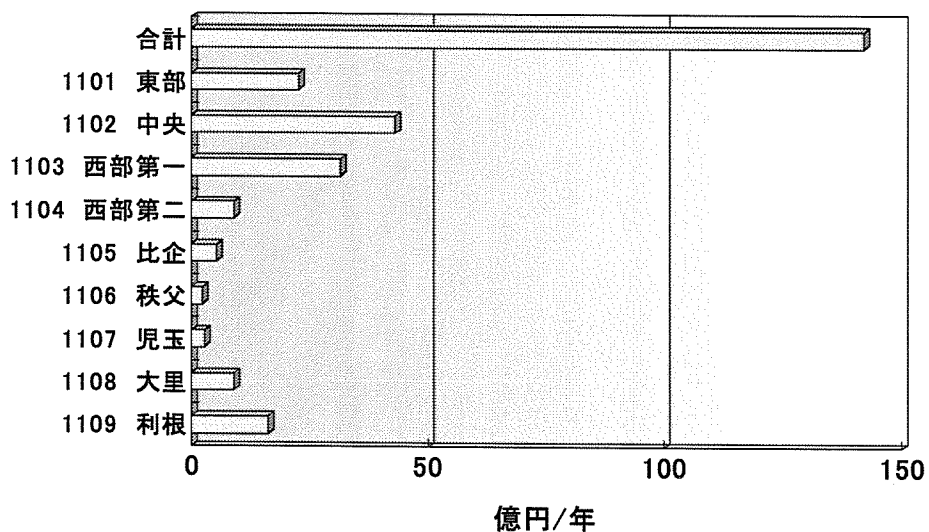
急性期必要病床数（その他）



DPC傷病名分類・手術有無毎に以下の条件で必要病床数を推計

1. 急性期入院期間=特定機能病院の平均在院日数
2. 病床稼働率=0.8

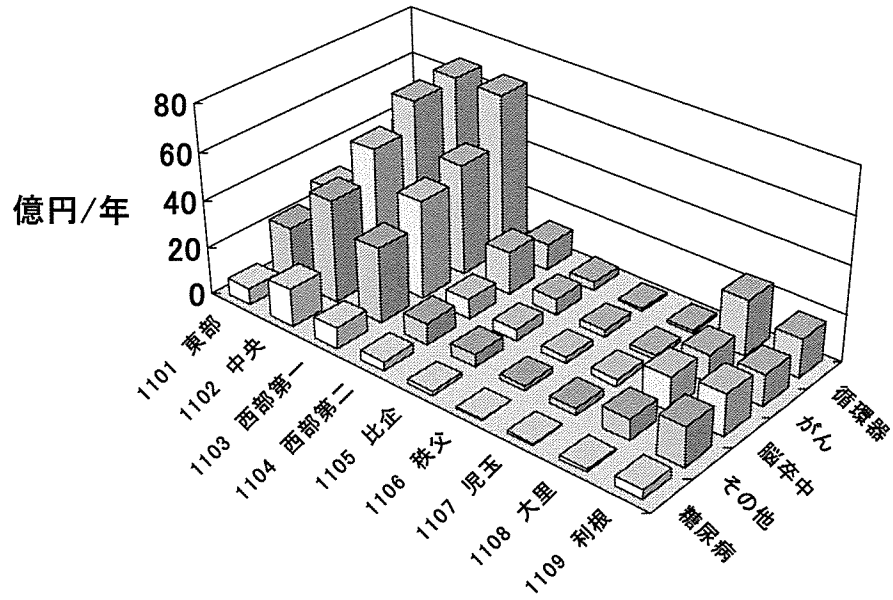
急性期年間医療費（その他）



DPC傷病名分類・手術有無毎に以下の条件で年間医療費を推計

1. 急性期入院期間=特定機能病院の平均在院日数
2. 一般病院の1日あたり医療費=28,000円
3. 特定機能病院データより求めた疾病分類間の相対係数を使用

急性期年間医療費（5事業別）



地域医療資源必要度の推計の実例 東京都

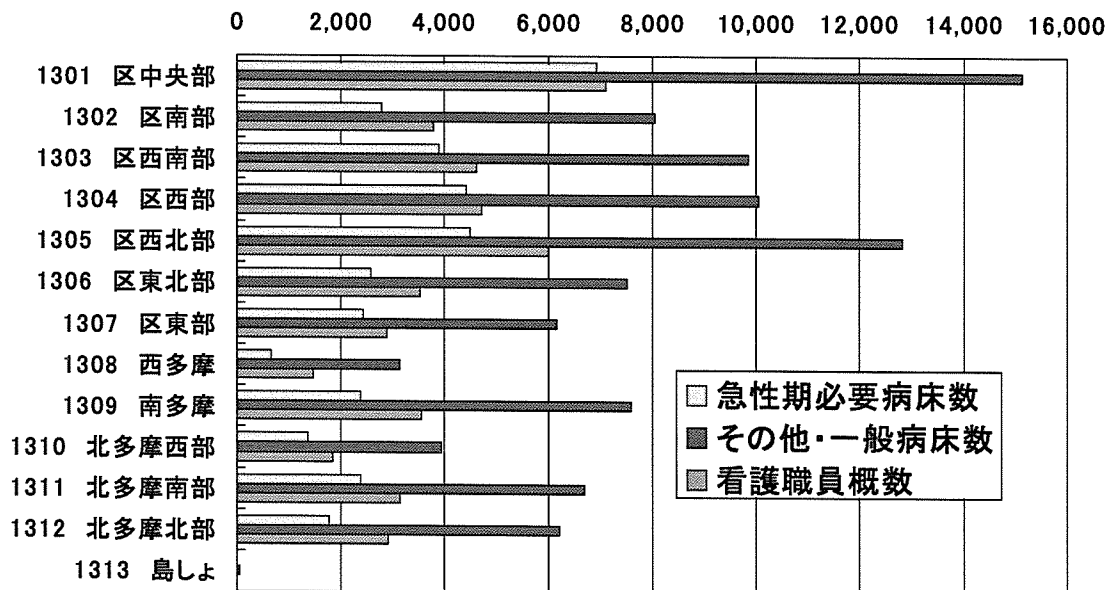
東京都の各二次医療圏では、急性期必要病床数は既存一般病床の2分の1から4分の1となっており、区中央部二次医療圏でやや多く、多摩地区でやや少ない傾向が見られた。

一方、ICU 必要病床数は区中央部二次医療圏と北多摩南部二次医療圏でほぼ充足している以外は、不足している傾向が示され、超急性期医療整備状況の地域差が認められた。

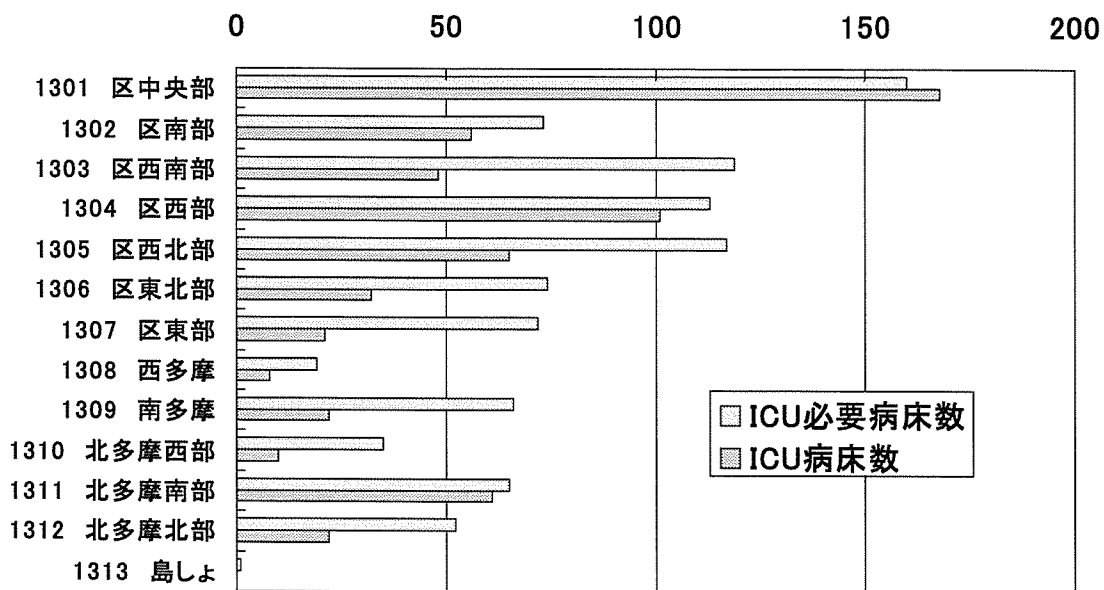
画像診断機器に関しては、区中央部二次医療圏でやや不足である以外は、やや過剰の傾向が認められた。

区中央部二次医療圏への一極集中と医療資源の充足に対して、それ以外の地域での整備の遅れが東京の特徴といえる。

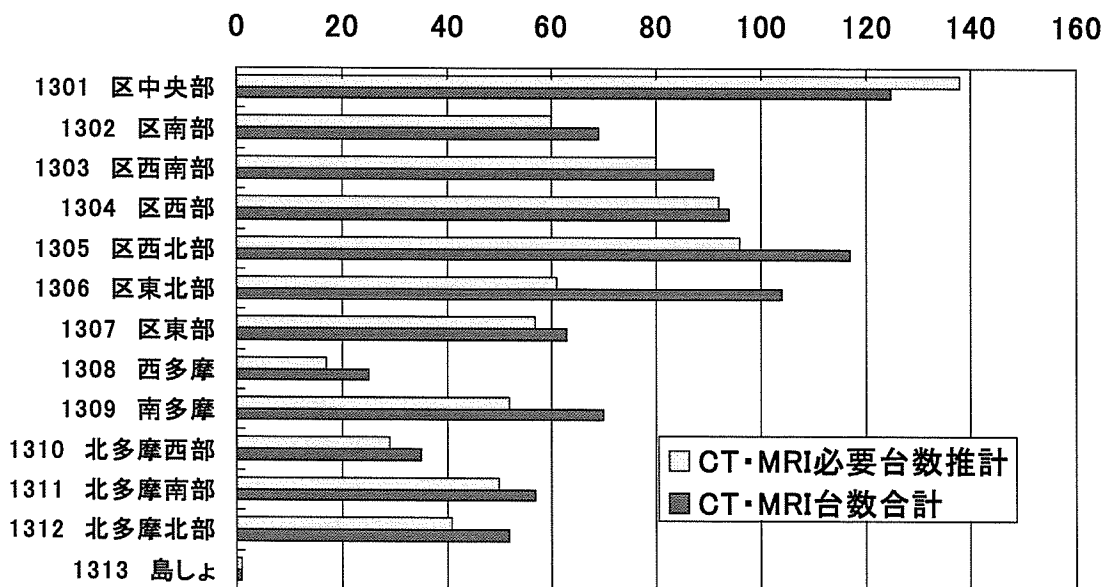
二次医療圏別急性期必要病床数



二次医療圏別ICU必要病床数



二次医療圏別CT・MRI必要台数の推計

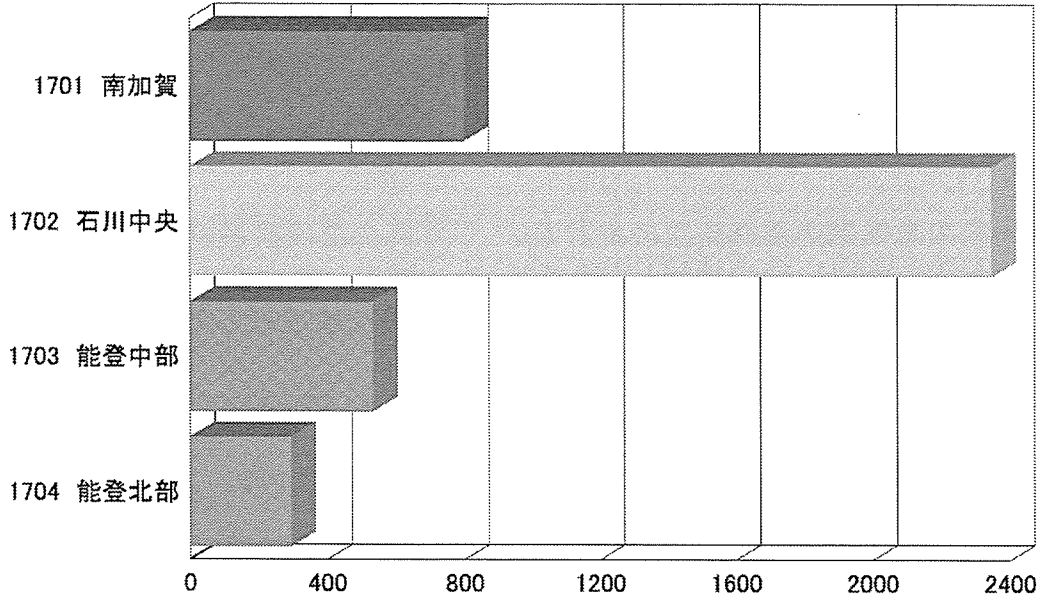


地域医療資源必要度の推計の実例 石川県

石川県の急性期必要病床数の推計では、いずれの二次医療圏とも既存一般病床の約3分の1であり、他の地域と同等であった。さらに、急性期平均在院日数が約7日まで短縮すると仮定して推計を行ったところ、さらに急性期必要病床数は減少し、既存一般病床の約5分の1となることが示された。

対象：石川県

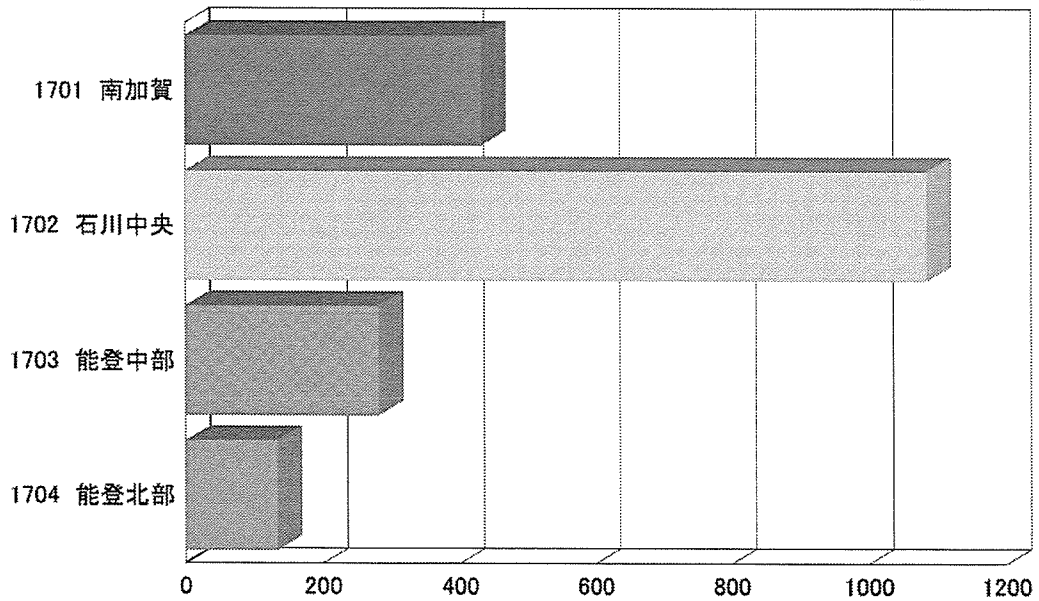
平均在院日数11日



急性期必要病床数

対象：石川県

平均在院日数7日



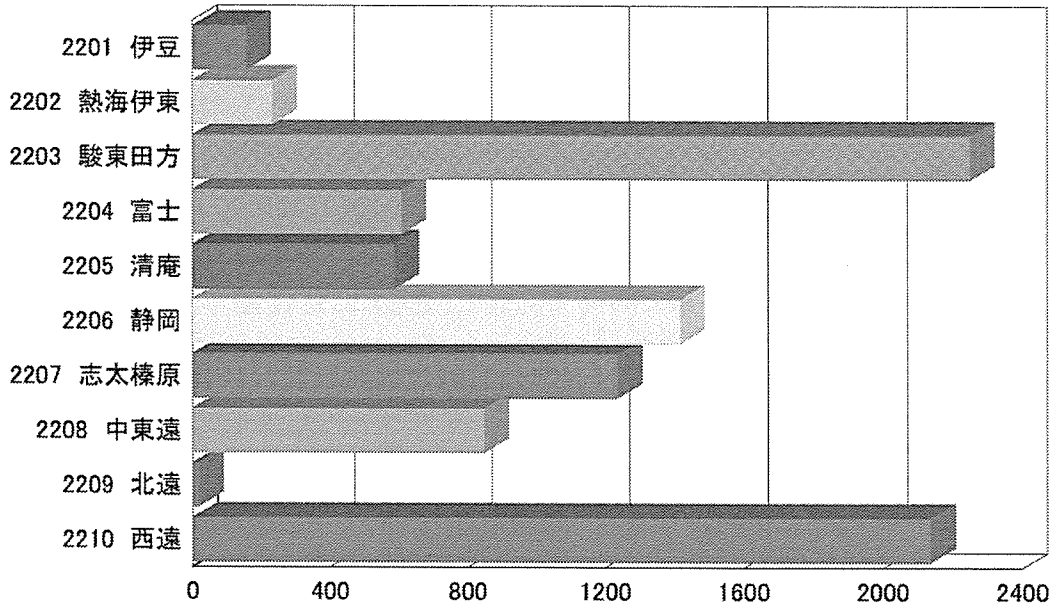
急性期必要病床数

地域医療資源必要度の推計の実例 静岡県

静岡県の急性期必要病床数の推計では、いずれの二次医療圏とも既存一般病床の約3分の1であり、他の地域と同等であった。さらに、急性期平均在院日数が約7日まで短縮すると仮定して推計を行ったところ、さらに急性期必要病床数は減少し、既存一般病床の約5分の1となることが示された。

対象：静岡県

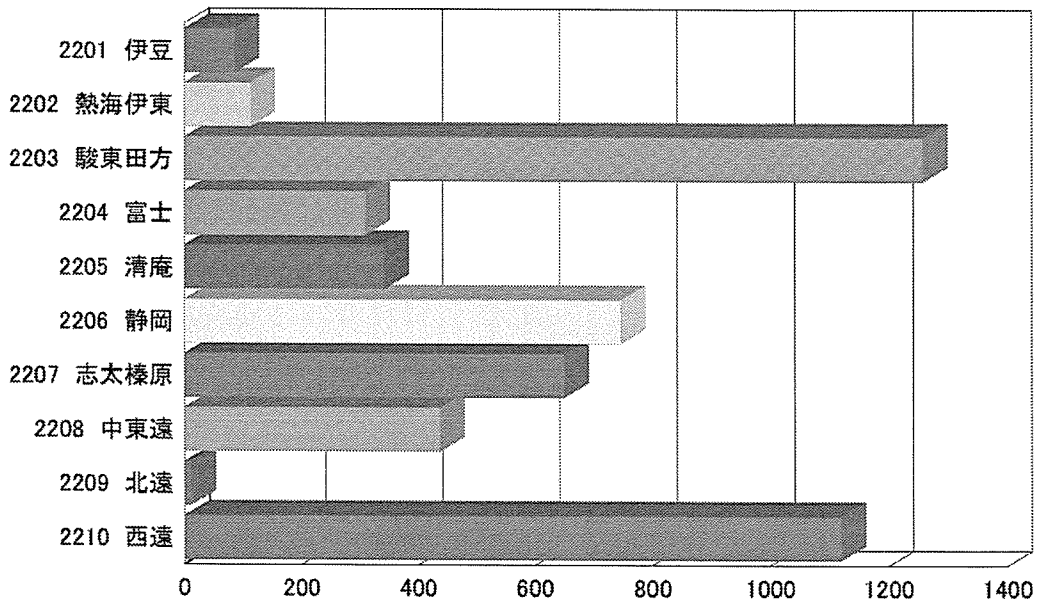
平均在院日数11日



急性期必要病床数

対象：静岡県

平均在院日数7日



急性期必要病床数

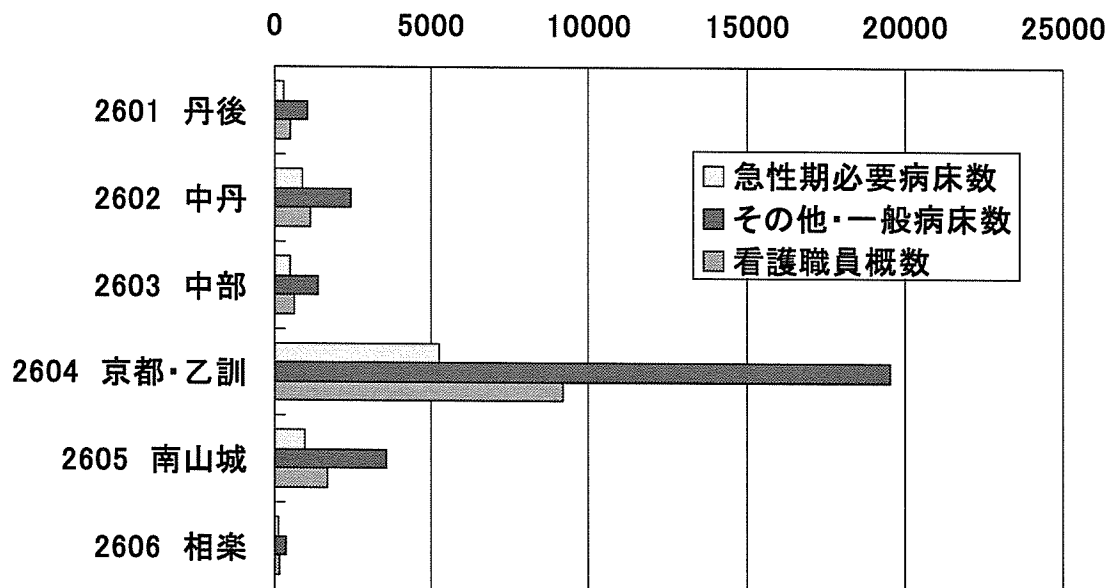
地域医療資源必要度の推計の実例 京都府

京都府の各二次医療圏では、ほぼ共通して急性期必要病床数は既存病床の3分の1となっており、急性期病床の明確化の必要性は、他の地域と同様であった。看護職員数と急性期必要病床数との比率もほぼ他地域と同様である。

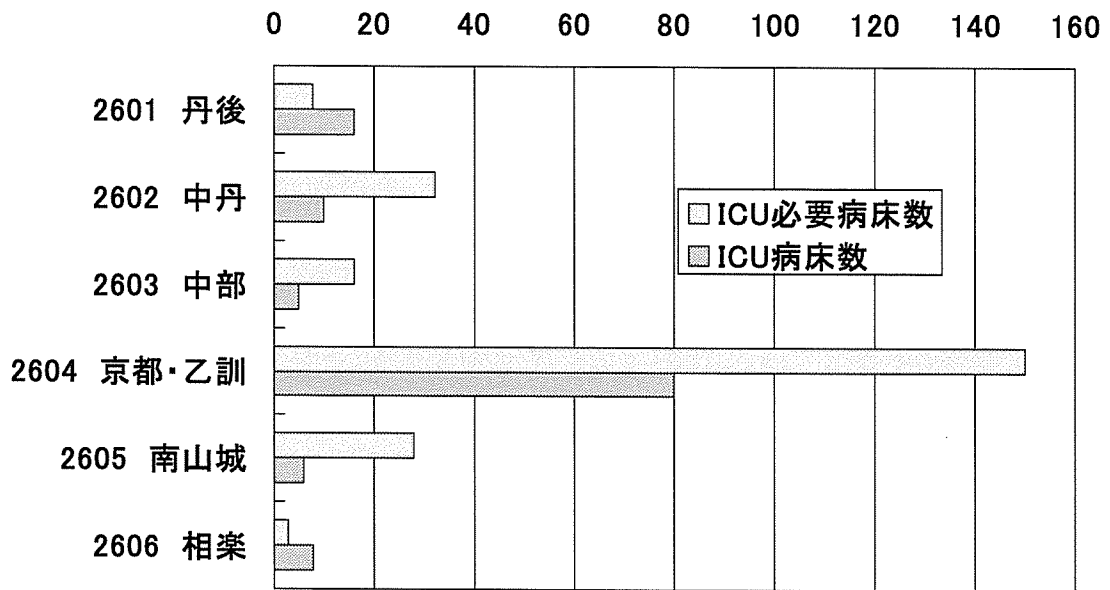
一方、ICU 必要病床数に対する充足率には地域差が大きく、丹後、相楽二次医療圏では過剰であるのに対して、その他の地域では不足していることが示された。

画像診断機器に関しては、全般に2倍程度過剰であることが示された。

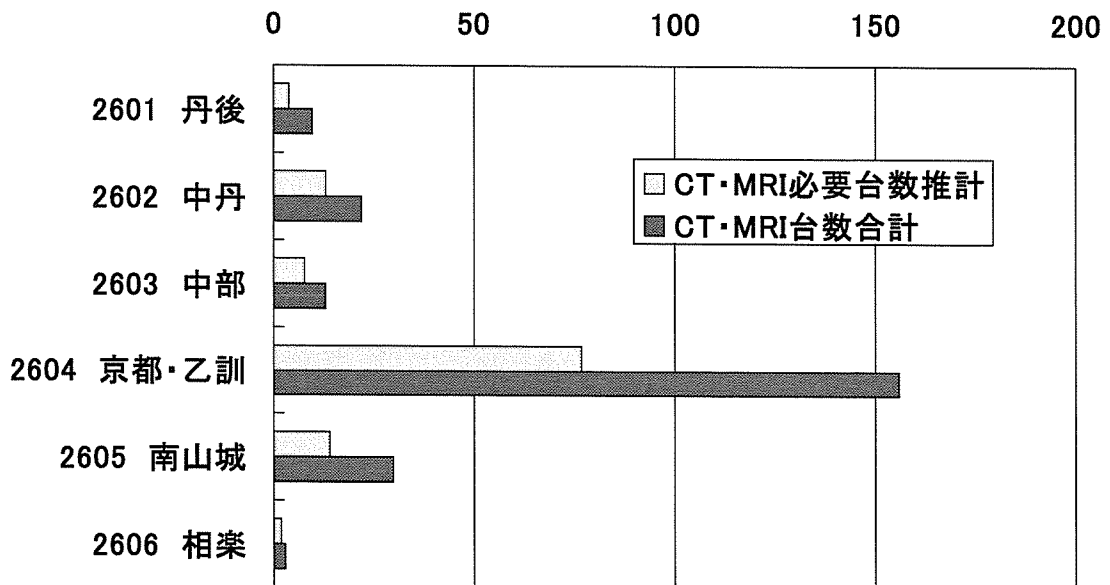
二次医療圏別急性期必要病床数



二次医療圏別ICU必要病床数



二次医療圏別CT・MRI必要台数の推計



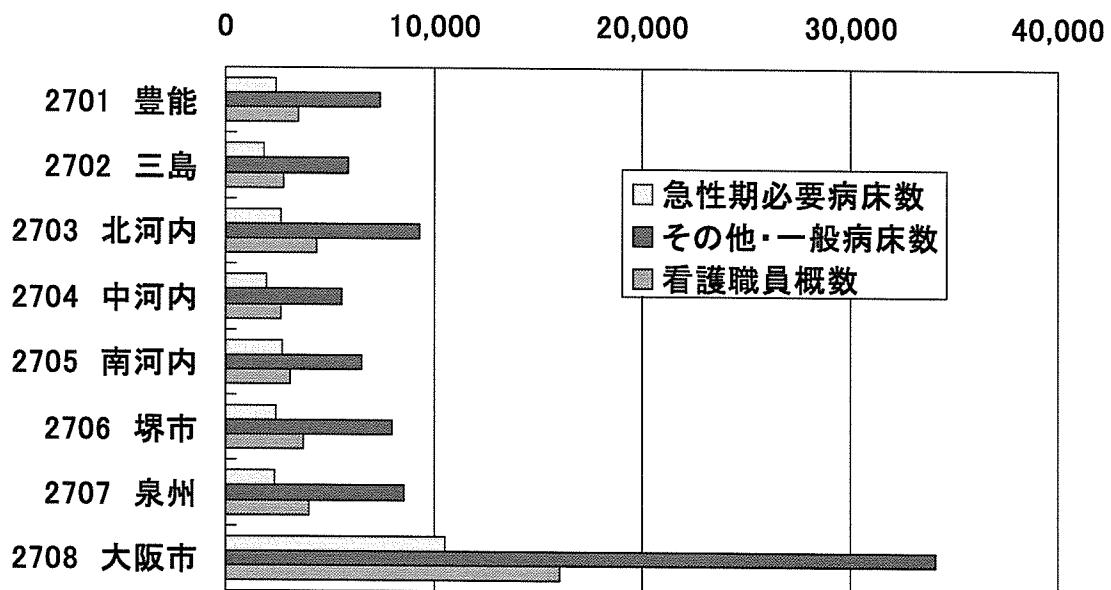
地域医療資源必要度の推計の実例 大阪府

大阪府の各二次医療圏では、ほぼ共通して急性期必要病床数は既存病床の3分の1となっており、急性期病床の明確化の必要性は、他の地域と同様であった。看護職員数と急性期必要病床数との比率もほぼ他地域と同様である。

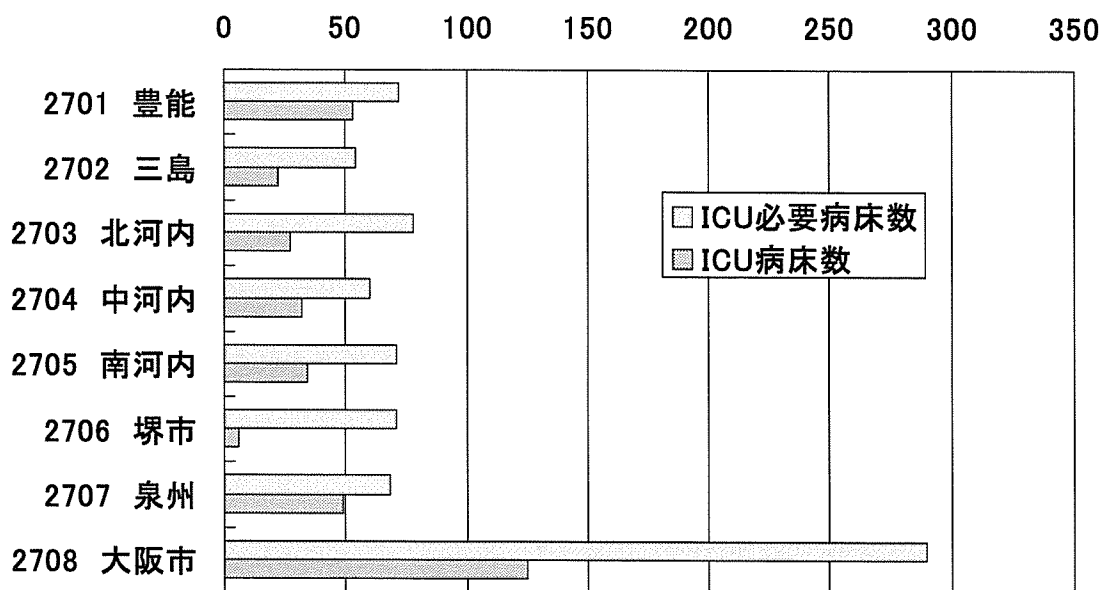
一方、ICU 必要病床数はほぼ全地域で不足し、特に堺市二次医療圏では著しく低かった。全地域を通して超急性期医療の整備が必要であろう。

画像診断機器に関しては、全般にやや過剰であることが示された。

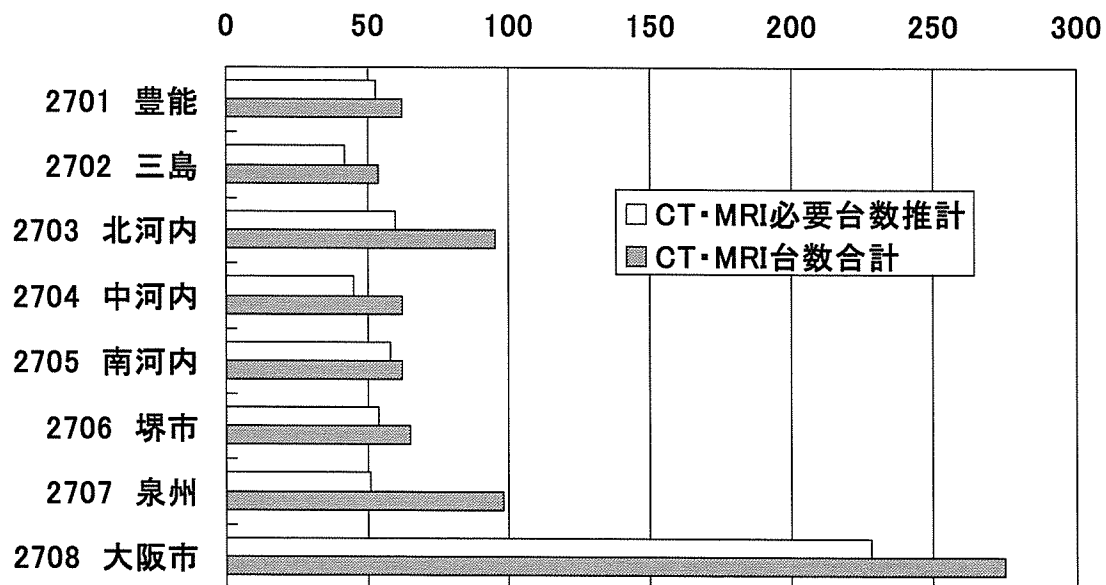
二次医療圏別急性期必要病床数



二次医療圏別ICU必要病床数



二次医療圏別CT・MRI必要台数の推計

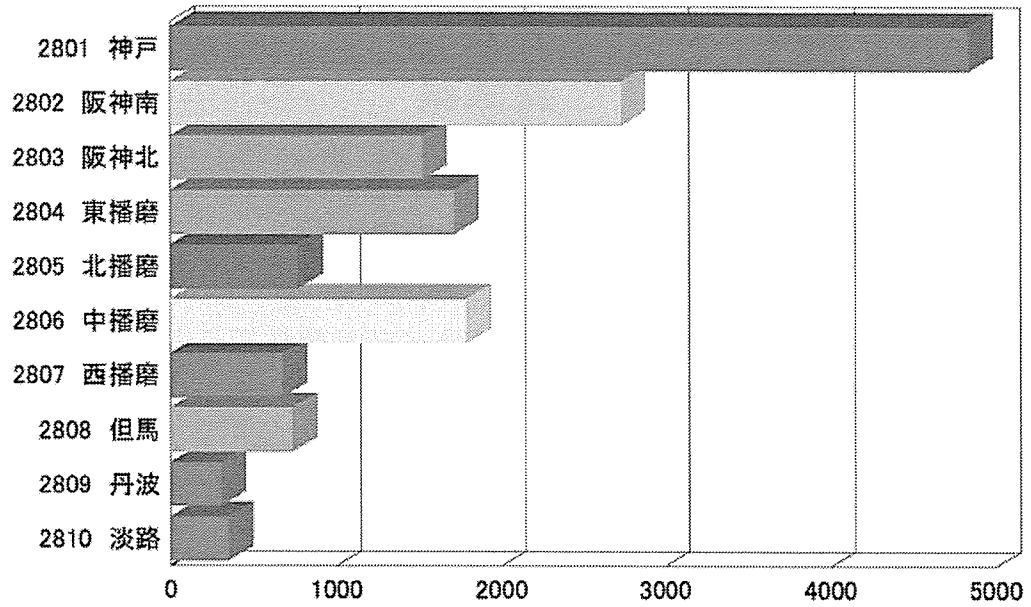


地域医療資源必要度の推計の実例 兵庫県

兵庫県の急性期必要病床数の推計では、いずれの二次医療圏とも既存一般病床の約3分の1であり、他の地域と同等であった。さらに、急性期平均在院日数が約7日まで短縮すると仮定して推計を行ったところ、さらに急性期必要病床数は減少し、既存一般病床の約5分の1となることが示された。

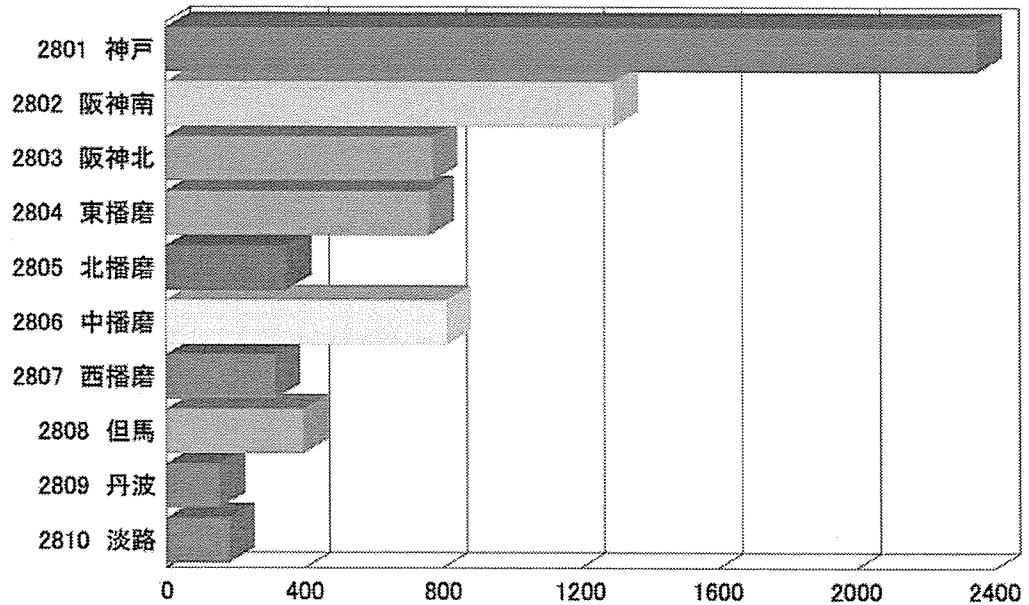
対象：兵庫県

平均在院日数11日



対象：兵庫県

平均在院日数7日



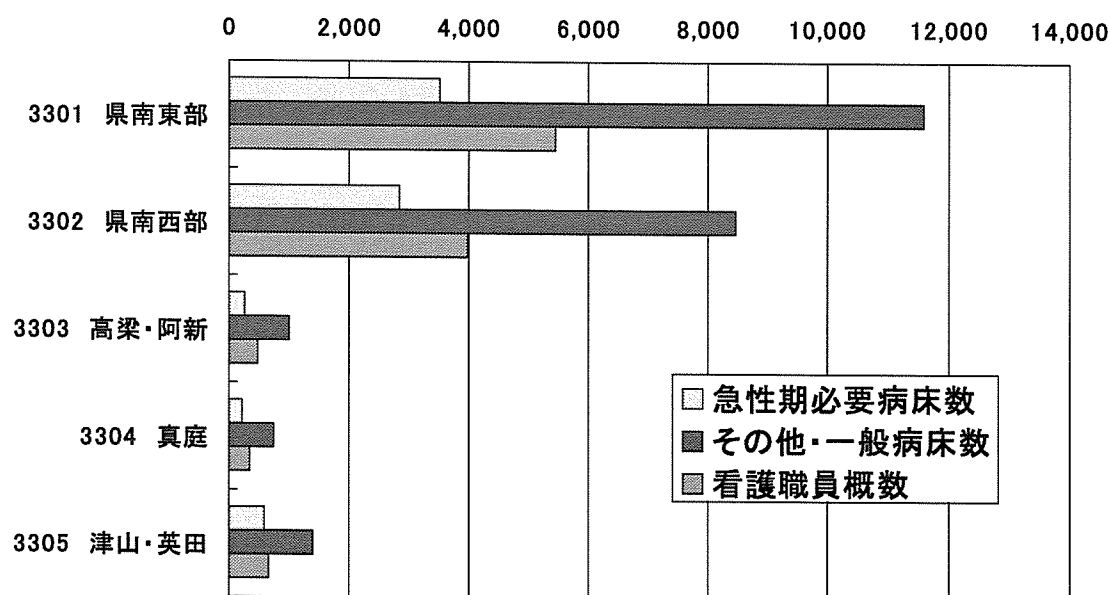
地域医療資源必要度の推計の実例 岡山県

岡山県の各二次医療圏では、ほぼ共通して急性期必要病床数は既存病床の3分の1となっており、急性期病床の明確化の必要性は、他の地域と同様であった。看護職員数と急性期必要病床数との比率もほぼ他地域と同様である。

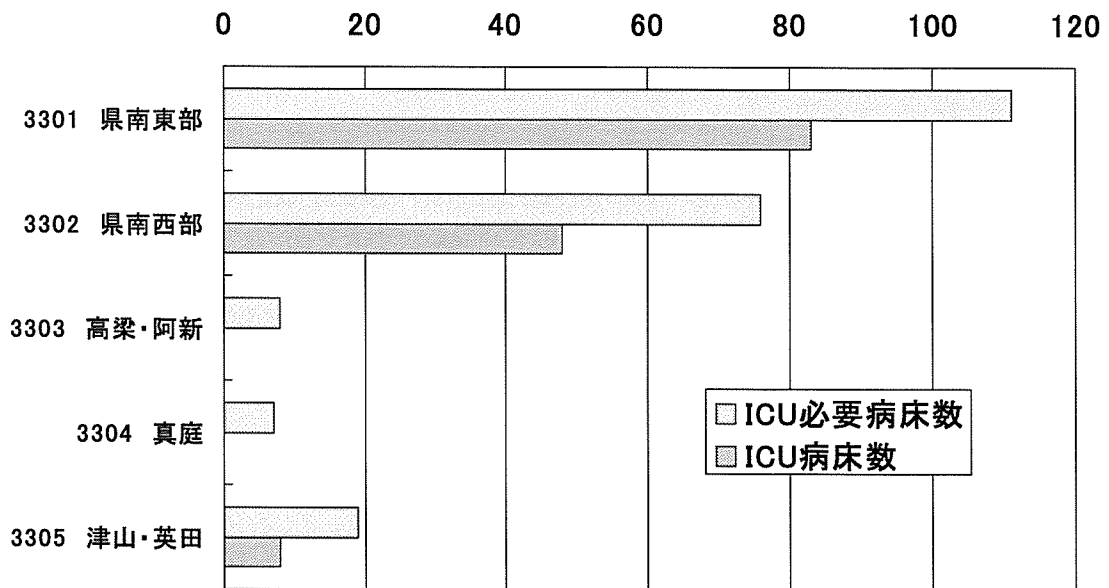
一方、ICU 必要病床数はほぼ全地域で不足し、特に高梁・阿新、真庭二次医療圏堺市では著しく低かった。全地域を通して超急性期医療の整備が必要であろう。

画像診断機器に関しては、全般にやや過剰であることが示された。

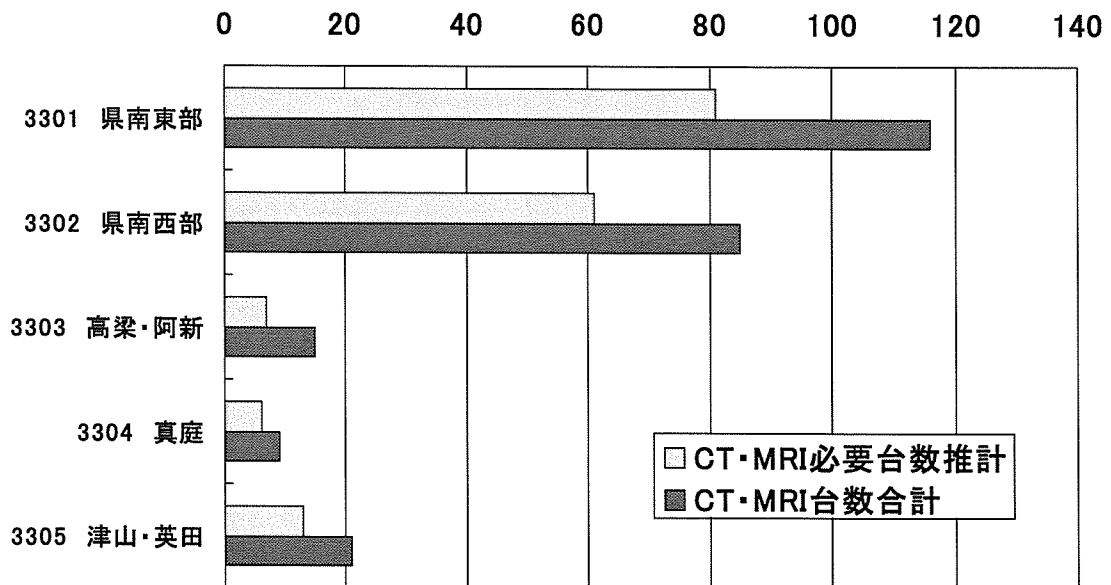
二次医療圏別急性期必要病床数



二次医療圏別ICU必要病床数



二次医療圏別CT・MRI必要台数の推計

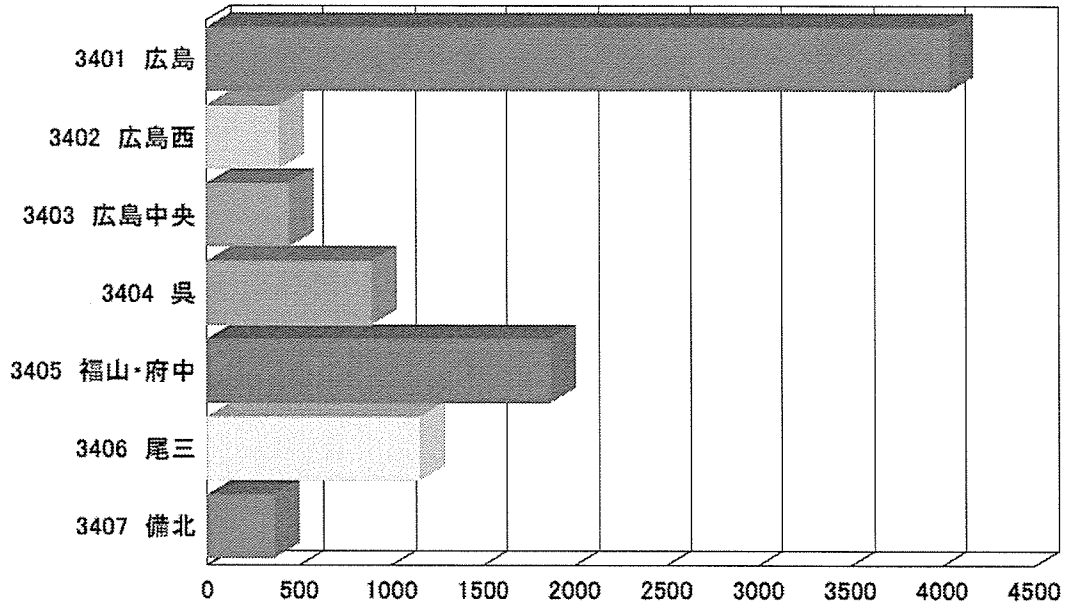


地域医療資源必要度の推計の実例 広島県

広島県の急性期必要病床数の推計では、いずれの二次医療圏とも既存一般病床の約3分の1であり、他の地域と同等であった。さらに、急性期平均在院日数が約7日まで短縮すると仮定して推計を行ったところ、さらに急性期必要病床数は減少し、既存一般病床の約5分の1となることが示された。

対象：広島県

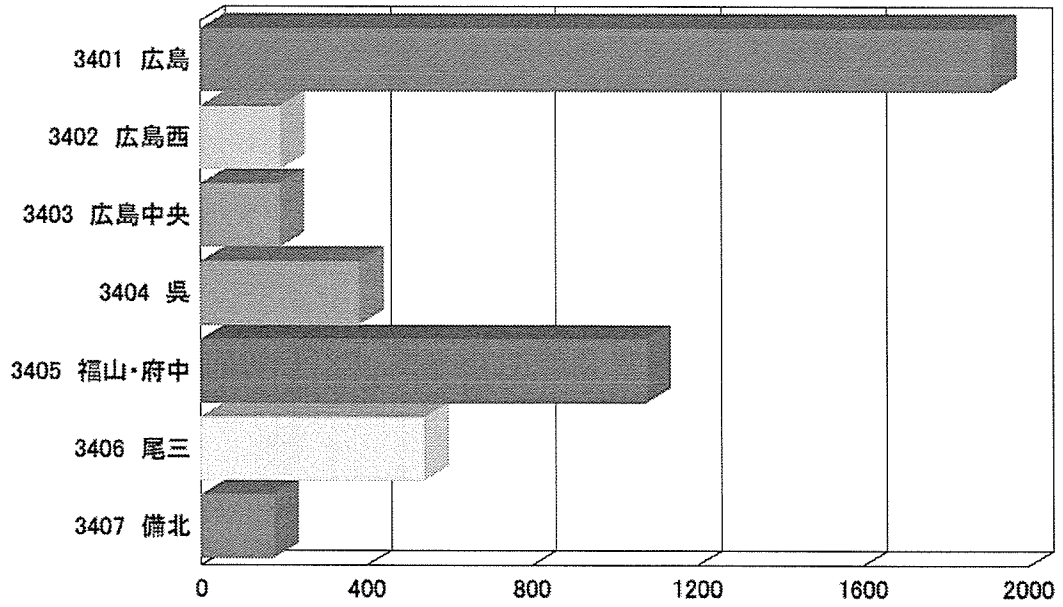
平均在院日数11日



急性期必要病床数

対象：広島県

平均在院日数7日



急性期必要病床数

地域医療資源必要度の推計の実例 福岡県

福岡県の各二次医療圏では、ほぼ共通して急性期必要病床数は既存病床の3分の1となっており、急性期病床の明確化の必要性は、他の地域と同様であった。看護職員数と急性期必要病床数との比率もほぼ他地域と同様である。

一方、ICU必要病床数は久留米二次医療圏以外の全地域で不足し、一部の二次医療圏では著しく低かった。全地域を通して超急性期医療の整備が必要であろう。

画像診断機器に関しては、全般にやや過剰であることが示された。

二次医療圏別急性期必要病床数

